

グローバルデザイン提案書:香取市

林 健一^{*1} 佐藤 寛^{*2} 青木 章^{*3}

【概要】

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北は茨城県と接している。東京から70km圏にあり、世界への玄関口である成田空港から15km圏に位置している。市の北部には利根川が東西に流れ、その流域には水郷の風情が漂う広大な水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地となっており、北総台地の一角を占めている。市域は東西約21.2km、南北22.7km、面積は262.3km²で、県内第4位の面積を有している。令和7年2月1日現在の住民基本台帳人口は69,484人である。

本提案書では、香取市のプロファイリングを行い¹⁾、①インバウンド施策と②川の駅事業に焦点を当てて、グローバル・デザインを提案した。具体的には、香取市の強みである農業と、佐原の歴史的まちなみや大祭、水郷景観、川の駅としての機能も備えた道の駅など、豊富な地域資源を生かした振興策を具体化することにより、域内への消費・投資の流入を増加させ、第1次産業、第2次産業の地場産品の売上拡大や、新たな観光関連サービス業の創出等を支援し、第3次産業の売上拡大により、地域住民の所得向上を目指していくことを提案している。

1. 香取市のグローバル・プロファイリング

1 基本情報

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北は茨城県と接している。東京から70km圏にあり、世界への玄関口である成田空港から15km圏に位置している²⁾。北部には利根川が東西に流れ、その流域には水郷の風情が漂う

広大な水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地となっており、北総台地の一角を占めている。

産業面では、こうした立地特性を活かした、古くから水郷の早場米産地として知られる米どころである。また、食用甘藷の生産・販売額全

*1 中央学院大学現代教養学部長・教授

*2 学校法人中央学院常務理事

*3 前我孫子市副市長

1) 香取市のグローバル・プロファイリングの詳細については、前号（第24巻1号2号合併号）pp.85-120を参照されたい。

2) 以下の基本情報は、香取市ウェブサイト「香取市の概要・なりたち」

<https://www.city.katori.lg.jp/government/profile/profile.html> によった。

国一を誇る千葉県の中でも、一番の生産地である。温暖な気候と肥沃な農地に恵まれ、首都圏の食糧生産地の役割を担っている。

同市には、水郷筑波国立公園に位置する利根川周辺の自然景観をはじめ、東国三社の一つである「香取神宮」、日本で初めて実測日本地図を作成した「伊能忠敬」（関係資料は国宝指定されている）の旧宅や、江戸時代から昭和初期に建てられた商家や土蔵が軒を連ねる佐原の町並み（国選定重要伝統的建造物群保存地区）が見られる。

図1 香取市の位置



出典) 香取市ウェブサイト「香取市の概要・なりたち」
<https://www.city.katori.lg.jp/government/profile/profile.html>

2. 経済・ビジネス

(1) 地域経済の概況

RESAS（地域経済分析システム）³⁾の「地域経済循環図」（図2）により、香取市の地域経済の概況を見ていくことにする。

RESASの地域経済循環図は、「地域内での生産額」を基準にしたときに、支出と分配でどの程度、他の地域に頼っているのかが分かるように工夫されている⁴⁾。つまり、地域経済循環図を活用することにより、地域経済の全体像

及び各段階（生産、分配、支出）におけるお金の流入状況が把握可能となる。地域経済循環図は、いわば地域経済循環の観点から、グローバルなつながりを可視化するツールと言えるのである。

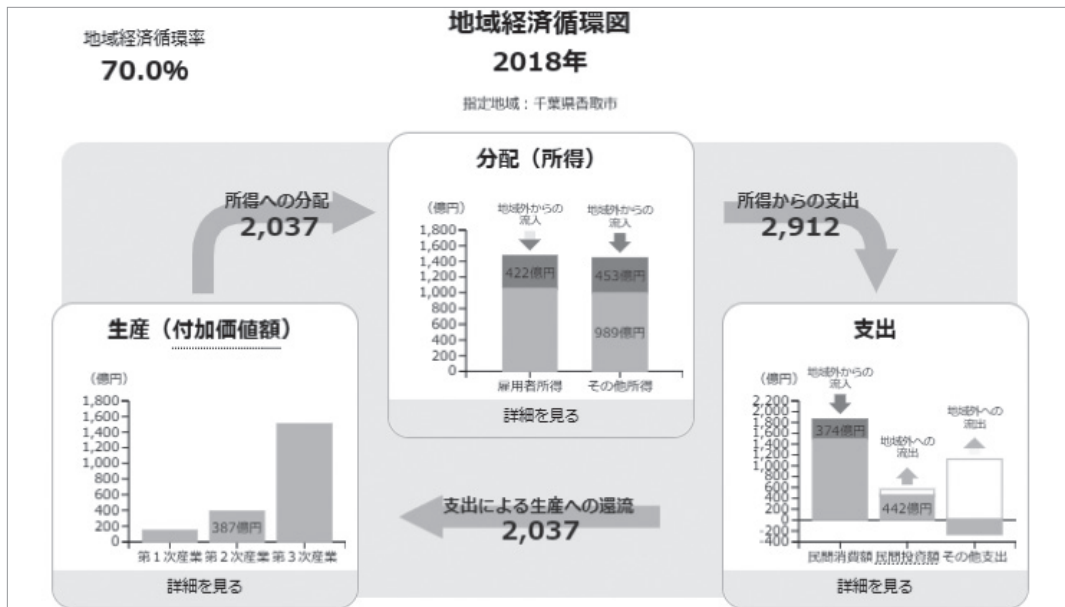
以下では、RESASの地域経済循環図（図2）とその関連データ⁵⁾を活用し、生産（付加価値額）面、分配（所得）面、支出面から、香取市地域経済の特徴と課題を明らかにしていく。

3) <https://resas.go.jp/#/13/13101>

4) 枝廣（2018）p.49。

5) 地域経済循環図では、同図の「詳細を見る」から一人当たりの付加価値額とその全国順位を把握することが可能である。なお、順位は、全国1,741市区町村におけるものである。

図2 地域経済循環図（香取市：2018年）



出典）RESAS「地域経済循環マップ・地域経済循環図」（香取市）

①生産（付加価値額）面

2018年における、総生産額（付加価値額）は2,037億円であるが、産業分類別にその内訳を確認していくと、第1次産業の生産額は145億円である。当該産業の従業者1人当たりの付加価値額は354万円で、483位となっている。第2次産業の生産額は387億円である。当該産業の従業者1人当たりの付加価値額は595万円で、1,396位となっている。第3次産業の生産額は1,505億円である。当該産業の従業者1人当たりの付加価値額は790万円で、994位となっている。

以上のとおり、香取市においては、第3次産業の生産（付加価値額）が最も大きいですが、同市の第1次産業（農業）は他市区町村と比較して、労働生産性（従業者1人当たり付加価値額）が高くなっている点に特徴がみられる。

②分配（所得）面

「分配（所得）」では、地域産業が稼いだ付加価値額がどのように所得として分配されたかを把握することができる。各棒グラフは、地域内の住民・企業等に分配された所得の総額を示している。

「分配（所得）」は、雇用者に支払われた「雇用者所得」と、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の「その他所得」で構成される。

①にみるとおり、香取市の地域産業は2,037億円の付加価値額を生み出しているが、分配（所得）では2,912億円となっている。つまり、875億円の流入が見られる。香取市の地域経済循環率は70.0%であるが、これは地域の所得のうち、70.0%を地域の生産が支えている

ことを意味する。

香取市に分配された「雇用者所得」とその内訳をみると、所得（地域内勤務者ベース）1,048 億円と、地域外からの流入 422 億円となっている。地域外からの流入は、市外から雇用者所得を獲得していることを意味し、同市がベットタウンとしての性格を持つことを示している。一人当たり雇用者所得は 198 万円で、1,158 位となっており、他市区町村と比較して低位である。

香取市内に分配された「その他所得」とその内訳をみると、所得（地域内勤務者ベース）989 億円と、地域外からの流入 453 億円となっている。

【特徴・課題】

以上のとおり、香取市の一人当たり雇用者所得は、他市区町村と比較して低位であり、地域産業の生産性向上と収益の拡大による住民所得の向上が課題である。

香取市は市外から「雇用者所得」と「その他所得」を獲得しているが、これは東京圏のベットタウンとしての性格を表している。雇用者所得の地域外からの流入自体には問題があるとは言えないが、今後は地域経済循環率を高めていくことも課題となる。このためには、香取市内に新たな産業や働く場を創出することが必要となる。これにより、地域外に働きに出ている者に対し、居住地域内に雇用の場を提供することができるだけでなく、周辺地域からの人口や所得の流入が期待されるのである。

③地域経済の支出面

図3の「支出」では、地域内の住民・企業等に分配された所得がどのように使われたかを把握することができる。「支出」は、住民の消費等を示す「民間消費額」、企業の設備投資等を示す「民間投資額」、政府支出、地域内産業の移輸出入収支額⁶⁾等を示す「その他支出」で構成されている。

香取市の「民間消費額」の内訳をみると、所得（地域内勤務者ベース）1,048 億円、地域外からの流入 374 億円となっており、地域外への流出は見られない。

RESASでは、地域内の住民・企業等が支出した金額に対する流出入額の比率を示す「支出流出率」を把握することができるが、「民間消費額」の「支出流出率」は 25.2%、207 位と他地域に比べて優位にある。これは、地域内だけでなく、地域外からの消費（買い物・観光等）を受け入れる力があることを示している。

香取市の「民間投資額」の内訳をみると、支出（地域内ベース）442 億円、地域外への流出 127 億円である。「民間投資額」の支出流出率は -22.3%（973 位）である。つまり民間投資額の 22%が地域外に流出している。また、地域外からの流入（民間投資）が見られないことから、地域外からの民間投資を香取市内に呼び込めていないことを示している。

香取市の「その他支出」の内訳は、地域外への流出 1,122 億円、支出（地域内ベース）-264 億円である。「その他支出」の「支出流出

6) RESAS の注記によれば、その他支出は、「政府支出」＋「地域内産業の（地域外への）移輸出 -（地域外からの）移輸入」により構成される。例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）は、「その他支出」の金額がマイナスとなる。

入率」はこれを反映し、-130.8%、1,653 位と低位にある。

【特徴・課題】

以上のとおり、民間消費額の支出流出率は他地域に比べて優位であった。また、民間消費額は、他地域からの流入も確認することができた。香取市の地域経済は内需に大きく依存しているといえるが、同市は、観光資源が豊富なため、観光客をさらに呼び込ることにより、民間消費額を増やすことが可能であろう。

市外から民間消費を獲得している一方で、市外からの民間投資は無く、民間投資額の一部やその他支出は市外に流出していることから、市外からの設備投資など、民間投資の呼び込みが課題となる。

④地域経済循環図からみた香取市の課題

R E S A S による地域経済循環図（経済的なグローバルなつながり）の概況は、以上のとおりであるが、地域内再投資力論⁷⁾や漏れバケツモデル⁸⁾の観点からみた香取市の課題について、考察を加えていく。

漏れバケツモデルにおいては、いったん地域

に入ったお金をどれだけ地域内で循環し、滞留させるかが重要であり、いかに地域から出ていくお金を減らすかが重要とされている⁹⁾。

より具体的には、地域経済循環図の「支出面」においては、「民間消費」や「民間投資（設備投資）」の流入、つまり、地域外の買い物客や観光客による消費や、設備投資を地域内に呼び込むことが課題となり、地域の生産面にその分が還流することになる¹⁰⁾。

また、「その他支出」においては、地域内の需要に対して地域内の企業の供給が少ない場合に地域外から財・サービスが流入し、所得が流出することになる¹¹⁾。

つまり、支出面において、地域外から民間消費、民間投資、その他支出の流入が増えることにより、支出面から生産（付加価値額）に還流される額が増え、結果として所得面も向上していくことになる。以上の観点から、地域経済循環図を活用、再整理し、香取市の地域経済における「モレの見える化」を明確化したものが、図3である。

7) 岡田（2022）pp.175-178。

8) 枝廣（2018）pp.19-22。

9) 前掲注8・p.22。

10) 日本政策投資銀行・価値総合研究所（2019）p.157。

11) 前掲注10・p.158。

図3 地域経済における「モレの見える化」(香取市:2018年)

地域経済のモレの見える化(香取市:2018)

【生産・付加価値額】

1次産業	2次産業	3次産業	小計(億円)
145	387	1,505	2,037

【分配・所得】

地域内に循環		地域外へ流出	
雇用者所得	その他所得	雇用者所得	その他所得
1,048	989	0	0
①	2,037億円	③	0億円

地域外から流入

雇用者所得	その他所得
422	453
②	875億円

2,912億円(分配・所得=生産+流入-流出)

【支出】

地域内に循環			地域外へ流出		
民間消費	民間投資	その他	民間消費	民間投資	その他
1,486	442	-264		127	1,122
④		1,664億円	⑥		1,249億円

地域外から流入

民間消費	民間投資	その他
374	0	0
⑤		374億円

④+⑤ 支出による生産への還流

2,037億円(支出=分配・所得+流入-流出)

注) 四捨五入等の関係で合計が一致しない箇所がある。

出典) RESASの地域経済循環図に基づき著者(林)作成。

【特徴・課題】

図3の分析をとおして見えてくる香取市の課題は、入り口段階となる、生産面(付加価値額)においては、地域の稼ぐ力を向上させること、つまり、生産性の向上による付加価値額を増加させるための産業振興策が必要となる。

分配・所得では、地域外からの雇用者所得の内製化、つまり、香取市内に新たな産業や働く場を創出し、地域経済循環率を向上させることが課題となる。

支出では、「地域内の循環」と「地域外からの流入」を増やすこと、つまり、観光振興等により民間消費を増やしたり、地域内外からの民間投資を増やしたりする等、地域外からの流入を増やし、地域外への流出を減らすことが課題となる。これらに加えて、a. 分配(所得)で

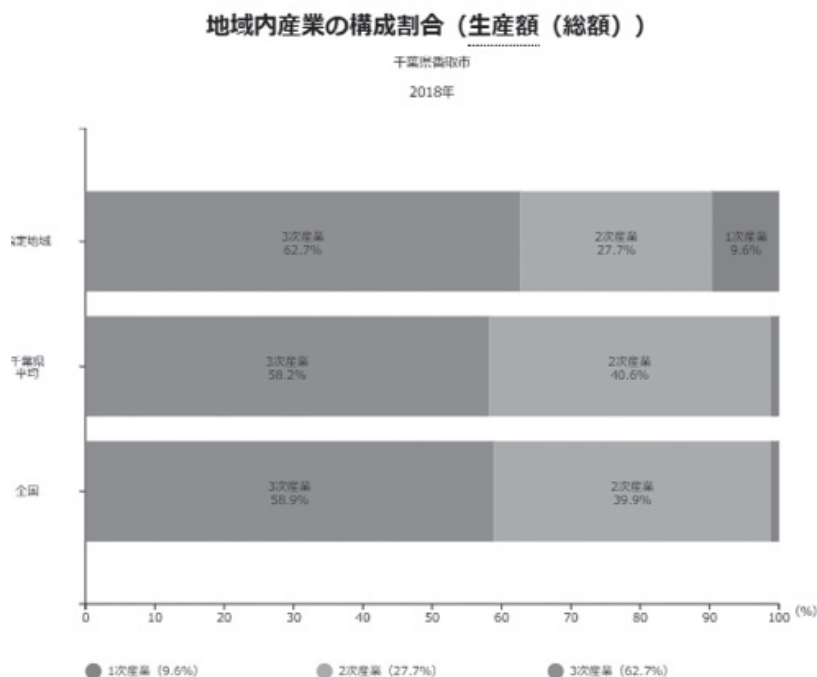
得た所得をできるだけ多く地域内で循環させるための産業間連携の仕組みづくり、b. 「民間投資」と「その他支出」を地域内に呼び込むこと、c. 漏れバケツの穴(図中の「地域外に流出」)をできるだけ小さくするための取り組みを具体化していくことが課題となる。

(2) 地域産業の構成とその特徴

以下では、地域経済循環図により把握した、グローバルなつながりを念頭に、地域産業の構成とその特徴を見ていくことにする。

RESASの「生産分析」(図4)によれば、香取市の2018年の生産額(総額)は3,492億円である。また、地域内産業の内訳は、第3次産業が最も多く62.7%、続いて、第2次産業が27.7%、第1次産業は9.6%となっている。

図4 地域産業の構成割合（香取市：2018年）



出典）RESAS「地域経済循環マップー生産分析」（香取市）

この生産額（総額）の内訳を産業中分類で見ると、図5のとおり、住宅賃貸業（381億円）、農業（334億円）、保健衛生・社会事業（331億円）、建設業（280億円）、小売業（203億円）、食料品（203億円）となっており、これらの産業が主に香取市経済を生産面で支えているのである。また、香取市では、他地域と比較して、農業の生産額（総額）の比重が大きい点で特徴がある。

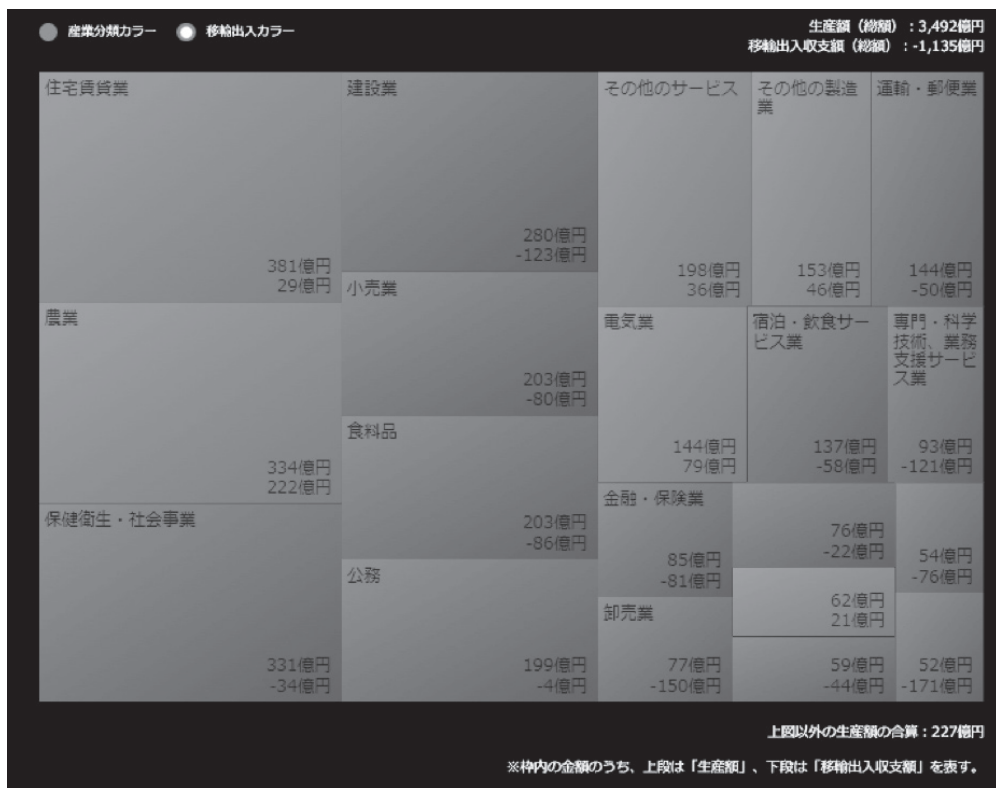
次に、図5により、移輸出入収支の状況、つまり、市外から収入を得ている産業と市外への支出が多い産業を見ていくことにする。図5の枠内のうち上段が生産額、下段が移輸出入収

支の金額を示している。

まず、市外から収入を得ている産業についてみると、農業（222億円）、電気業（79億円）、その他の製造業（46億円）、その他のサービス業（36億円）、住宅賃貸業（29億円）などとなっている。

次に、市外への支出が多い産業についてみると、卸売業（-150億円）、建設業（-123億円）専門・科学技術、業務支援サービス業（-121億円）、食料品（-86億円）、金融・保険業（-81億円）、小売業（-80億円）、宿泊・飲食サービス業（-58億円）などとなっている。

図5 香取市（2018年）の生産額（総額：移輸出入カラー）



出典）RESAS「地域経済循環マップー生産分析」（香取市）

【特徴・課題】

移輸出入収支をまとめると、市外から収入を得ている産業は、農業、電気業、その他の製造業、その他のサービス業、住宅賃貸業となっている。基盤産業とは域外からお金を稼いでくる産業と考えるなら、これらの産業をさらに強化していくことが課題となる。

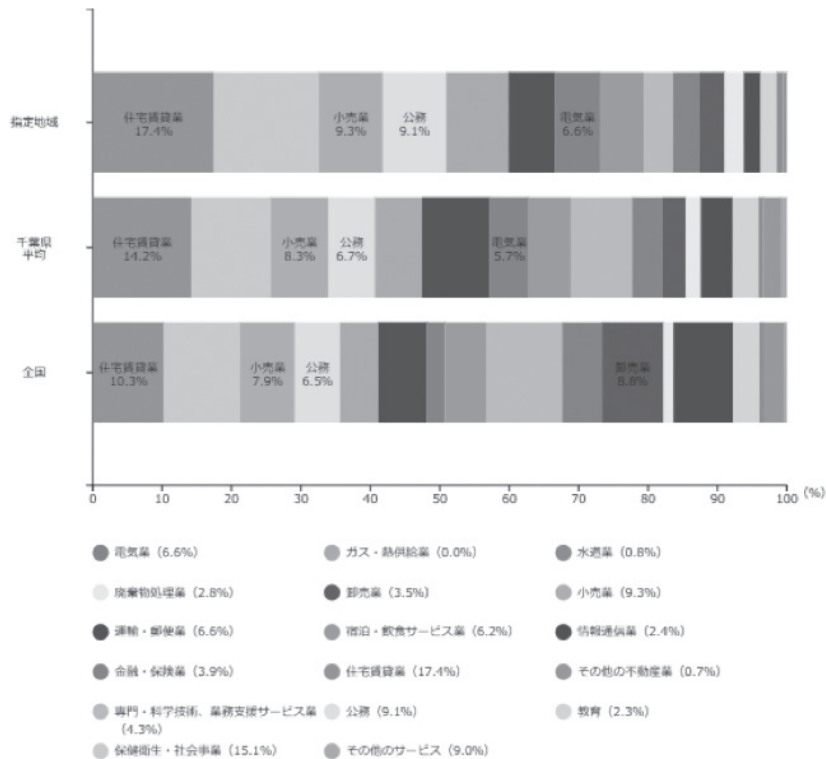
これとは逆に、市外への支出が多い産業についてみると、卸売業、建設業、食料品、小売業、宿泊・飲食サービス業である。漏れバケツモデルの観点から見ると、漏れバケツの穴（地域外に流出）をできるだけ小さくするための取り組みを具体化していくことが課題となる。

（3）香取市の第三次産業

香取市の第三次産業について見ていくことにする。RESASにより、まずは、香取市における産業構成割合の比較（総生産額）を確認すると、図6のとおりとなる。

香取市の第三次産業では、住宅賃貸業（17.4%）、保健衛生・社会事業（15.1%）、小売業（9.3%）その他のサービス業（9.0%）が高い割合を占めている。これらは千葉県平均、全国平均と比較しても高い点の特徴となっているが、運輸・郵便業や情報通信業の割合は低くなっている。

図6 第三次産業・産業構成割合の比較（生産額（総額））



出典）RESAS「地域経済循環マップー生産分析」（香取市）

（４）「稼ぐ力分析」から見た現状と課題

地域の稼ぐ力を向上させるための取り組みを検討する前段として、RESASによる「影響力・感応度分析」について見ていくことにする。

「影響力（係数）」とは、当該産業に対する新たな需要が、全産業（調達先）に与える影響の強さを示し、数値が大きいほど、その産業の調達先が地域内に多いということとなる。

「感応度（係数）」とは、全産業（販売先）に対する新たな需要による当該産業が受ける影響の強さを示し、数値が大きいほど、その産業の販売先が地域内に多いということになる。

香取市（2018年）における「影響力・感応度分析」結果は、図7のとおりである。同図の

第1象限は、影響力、感応度がともに大きいことから、地域経済を牽引する主力産業群となりえるものである。

香取市では、農業（影響力係数1.18、感応度係数1.22）、食料品製造業（1.18、1.06）、鉄鋼（1.07、1.14）、非鉄金属（1.07、1.05）、その他の製造業（1.05、1.11）、化学（1.06、1.08）、石油・石油製品（1.06、1.05）、情報通信産業（1.01、1.01）が第1象限に分類されている。

同図の第2象限は、影響力係数は低いものの、感応度係数が高いことから、主力産業群に牽引される形で波及効果が見込める産業群である。香取市では、専門・科学技術、業務支援サービ

ス業（1.00、1.73）、運輸・郵便業（0.97、1.51）、卸売業（0.95、1.24）、金融・保険業（0.58、1.18）、その他のサービス業（0.96、1.17）、小売業（0.96、1.03）である。

次に、稼ぐ力分析として、香取市における特化係数（付加価値額）と特化係数（労働生産性）のクロス分析を行った。その結果は、図8のとおりである。

図8のとおり、特化係数（付加価値額）と特化係数（労働生産性）の両方が1.0を超えているのは、金属加工業（付加価値額1.15・労働生産性1.22）である。

また、特化係数（付加価値額）が1.0を越えているのは、木材・木製品製造業（家具を除く）（付加価値額2.80・労働生産性0.86）、食品製造業（付加価値額1.65・労働生産性0.61）である。これらは、中分類による分析であるが、大分類では農業、林業（付加価値額14.48・労働生産性1.19）が高い状況となっている。

【特徴・課題】

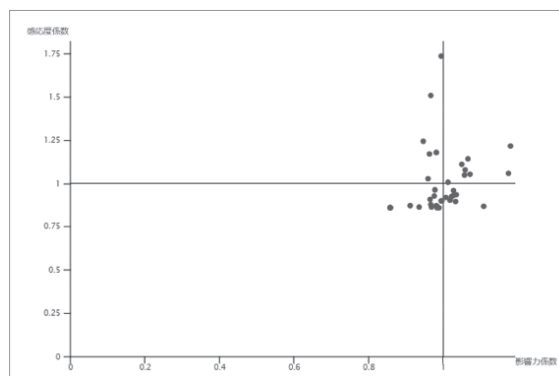
以上のとおり、影響力・感応度係数がともに

高く、地域経済を牽引する主力産業として、農業、食料品製造業などがあつた。また、主力産業群に牽引される形での波及効果が見込める産業群として、卸売業、その他のサービス業、小売業などがあつた。稼ぐ力分析においては、農業と食品製造業は特化係数も高い状況であつた。

香取市における課題は、こうした第1象限、第2象限に分類される産業の構成割合が低い点にある。第二次産業のうち生産額（総額）に占める割合の高かった建設業（1.03、0.89）は第4象限に、第三次産業のうち生産額（総額）に占める割合の高かった住宅賃貸業（0.91、0.87）は第3象限に位置している¹²⁾。

香取市においては、域外収入を獲得しやすい第2次産業のうち、製造業は強いとは言えず、付加価値額ベースでは建設業のウェイトが大きかった。製造業では、食料品製造業等のウェイトが大きい。しかし、建設業、その他の製造業の労働生産性が相対的に高くないため、香取市の第2次産業の労働生産性は、全国水準比で低くなっている。

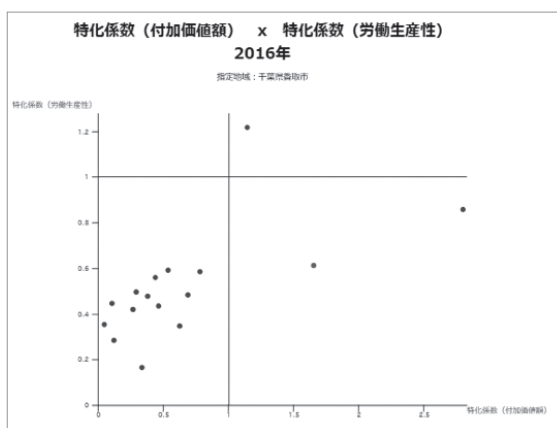
図7 香取市の影響力・感応度分析



出典) RESAS「産業構造マップ 全産業」

12) 第3象限は他産業との関連性が低く、経済波及効果が低い産業群と分類され、第4象限は経済波及効果が高いが、他産業との関連性が低い産業群と分類されている。

図8 香取市における産業別特化係数のクロス表（2016年）



出典）RESAS「産業構造マップ 全産業」

3. 香取市の観光

（1）観光地の数・評価

大手旅行ウェブサイト「トリップアドバイ

ザー」¹³⁾により、香取市の「観光スポット」を検索すると76件がヒットし、旅行者のおすすめランキング（上位10位）は、表1のとおりである。

表1 旅行者のおすすめランキング（香取観光スポット）

順位	観光スポット名	口コミ数
1位	香取神宮	326
2位	伊能忠敬記念館	111
3位	香取市佐原伝統的建造物群保存地区	192
4位	道の駅 水の郷 さわら	121
5位	水郷佐原あやめパーク	48
6位	水郷佐原あやめまつり	21
7位	伊能忠敬旧宅	103
8位	道の駅くりもと紅小町の郷	38
9位	佐原町並み交流館	25
10位	佐原の大祭秋祭り（諏訪神社秋祭り）	9
11位	佐原の大祭夏祭り（八坂神社祇園祭）	15
12位	水郷佐原観光協会 駅前案内所	18
13位	観福寺	19
14位	樋橋（じゃあじゃあ橋）	20
15位	佐原駅	9

出典）トリップアドバイザーによる検索結果により著者（林）作成。

13) トリップアドバイザー(Trip advisor)により「香取市 観光」との検索した結果である。(2025年1月6日検索・閲覧)。

(2) 宿泊施設・観光案内所

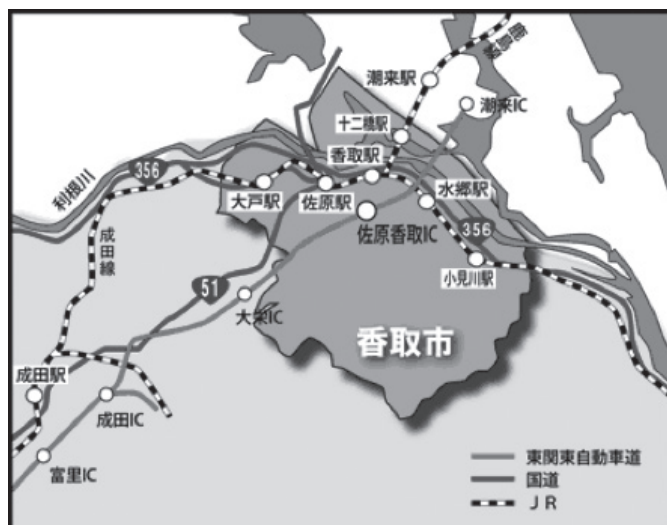
香取市内の宿泊施設には、佐原地区 10 施設、小見川地区 2 施設、山田地区 2 施設、栗原地区 1 施設となっている¹⁴⁾。

市内の観光案内所（水郷佐原観光協会）は、駅前案内所（JR 佐原駅前）、町並み中央案内処（観光の中心地小野川沿い）、JR 佐原駅観光交流センター（JR 佐原駅構内）、佐原町並み交流館（小野川・忠敬橋の近く）が設置されている。また、水郷佐原観光協会による観光情報サイトとして「旅なび！佐原」¹⁵⁾が運用されている。

(3) 香取市への交通アクセス

香取市への交通アクセスは、図9のとおりである。交通機関別にみていくと。電車利用では、東京駅からJR 総武線、総武本線、成田線を利用し、およそ 100 分を要する、自動車利用では、首都高速道路高谷 JCT から東関東自動車道佐原香取 I.C. まで約 66km となっている。東京駅八重洲南口などから「都市間輸送バス」銚子～東京駅・浜松町線の利用や、東京駅八重洲南口から関鉄バス、銚田・麻生ルートの利用も可能である。

図9 香取市への交通アクセス



出典) 香取市ウェブサイト「交通アクセス」

<https://www.city.katori.lg.jp/government/profile/access.html>

(4) 香取市への訪問経験・訪問意向

香取市を訪問する人々の中で、「行楽・観光」を目的とする人々はどのくらいいるのであろう

か。株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査 2024」¹⁶⁾における「訪問経験（行楽・観光のため）」は、2021 年は 5.7%、2022 年

14) 香取市役所ウェブサイト「かとり観光 Navi」宿泊施設による。

<https://www.city.katori.lg.jp/sightseeing/annai/yado.html>

15) 「旅なび！佐原」の URL は次のとおりである。 <https://www.suigo-sawara.ne.jp/?p=we-page-top-1>

16) 株式会社ブランド総合研究所「第 19 回地域ブランド調査 2024 個別報告書」(香取市)p.5 のデータによる。なお、2021 年のデータについては同研究所「2023 個別報告書」によった。

は4.1%、2023年は4.3%、2024年は4.7%である。2024年を比較すると、千葉県平均7.6%、全国平均7.2%を大きく下回っている。

次に、同調査¹⁷⁾により、香取市の「魅力度」「認知度」「観光意欲度」についてみていくことにする。

2024年における魅力度は5.2点（前年4.6点）、全国順位は648位/1,000（前年718位/1,000）、認知度は21.5点（前年21.0点）、全国順位は525位/1,000（前年525位/1,000）、観光意欲度は13.2点（前年16.3点）、全国順位は903位/1,000（690位/1,000）であった。

2024年における魅力度の内訳をみると、「とても魅力的」1.8%、「やや魅力的」6.8%、「どちらでもない」34.5%、「あまり魅力的ではない」7.1%、「全く魅力的ではない」2.4%となっており、中立の回答者がもっとも多くなっている。

観光意欲度の内訳¹⁸⁾をみると、「ぜひ行ってみたい」2.8%、「機会があれば行ってみたい」20.8%、「どちらともいえない」37.7%、「あまり行きたいとは思わない」36.7%となっている。意欲度の高い回答率（「ぜひ行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」の合計）よりも、意欲度の低い回答率（「あまり行きたいとは思わない」）の方が高い結果となっている。

こうした回答の背景には、香取市の持つ魅力などに問題があるというよりも、市そのもの認

知度に問題があるようである。認知度の内訳¹⁹⁾をみると、「よく知っている」2.6%、「知っている」6.8%、「少しだけ知っている」11.2%、「名前だけは知っている」32.9%、「名前も知らない」46.6%となっている。

つまり、回答者の約47%は、香取市を知らない状況にあり、認知度が低いことから、魅力度が低く評価され、結果として、観光意欲度も低い評価結果となっているものと思われる。

（５）香取市の滞在人口

RESASにある「滞在人口」の分析では、どの程度の人数が域外から来ているか、またどの地域からたくさん来ているかなどを把握することが可能である。

この分析は、滞在人口率（＝滞在人口÷当該自治体の人口）が用いられているが、この率は、地域の集客力や地域活性化のKPIとして活用可能である。滞在人口の把握に使われている調査手法は、スマートフォンの位置情報を利用し、一定の地域に2時間以上とどまっていることを「滞在」とみなしている。

香取市の滞在人口の月別推移（2018（平成30）年）は、図10のとおりであるが、県内順位は20位、全国順位は918位となっている。また、滞在人口の時間別推移は（図11）のとおりとなっている。

17) 前掲 16・個別報告書 p.1 の各数値による。

18) 前掲 16・個別報告書 p.4 の各数値による。

19) 前掲 16・個別報告書 p.2 の各数値による。

図10 滞在人口の月別推移（香取市：2018（平成30）年）

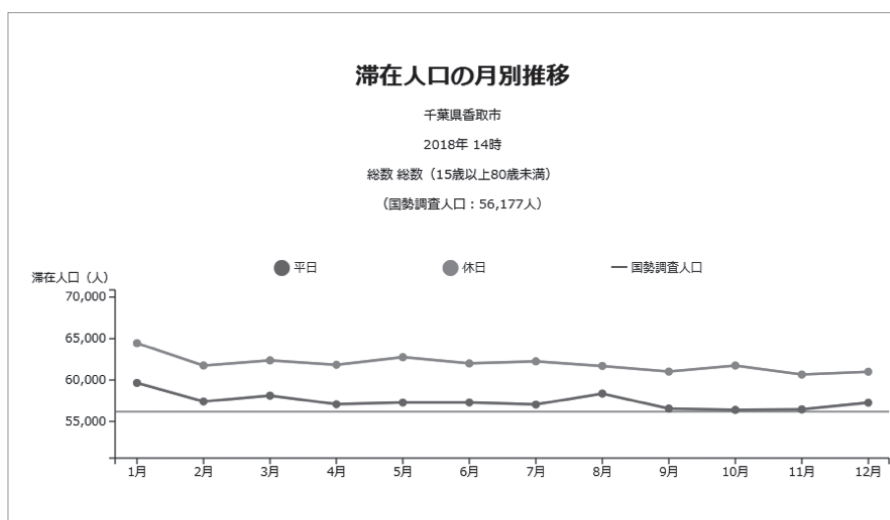
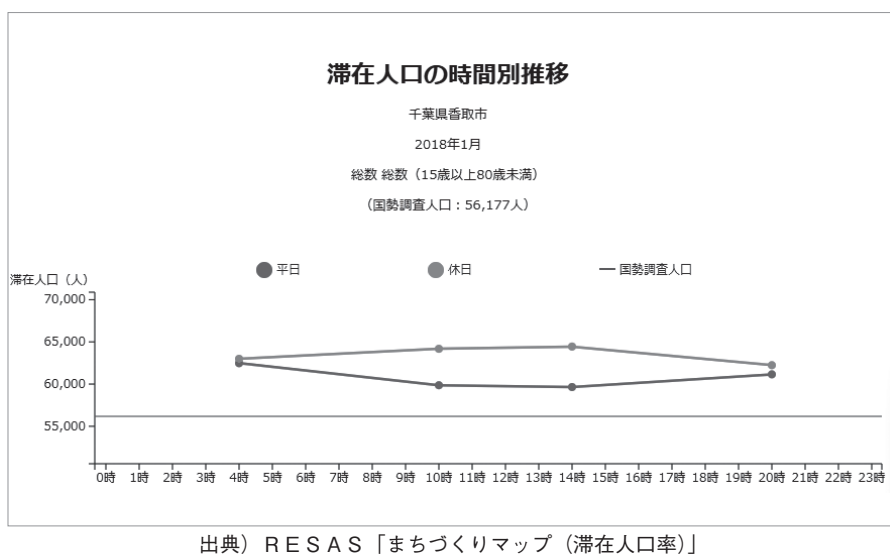


図11 滞在人口の時間別推移（香取市：2018（平成30）年）



【特徴・課題】

滞在人口は、いずれも国勢調査人口（56,177人）を上回っており、一定程度の滞在者、宿泊者を確保できているといえよう。しかし、表2のとおり、滞在人口の時間別推移を把握時点ごとに整理してみると、特に休日において、4時

と14時の比較では滞在人口が1,452人増加しているのに対して、14時と20時の比較では滞在人口が△2,203人となっている。

このことは市内の観光振興を図るうえで、宿泊滞在者を増やしていく取り組みを具体化していくことが課題となることを示している。

表2 滞在人口時間別推移の内訳表

(香取市：2018（平成30）年）

	平日	休日
4時	62,476 (1.11)	62,993 (1.12)
10時	59,865 (1.07)	64,183 (1.14)
14時	59,649 (1.06)	64,445 (1.15)
20時	61,156 (1.09)	62,242 (1.11)

注) 上段：滞在人口（人）

下段：滞在人口率（倍）

出典）RESAS「まちづくりマップ（滞在人口率）」に基づき著者（林）作成

2. 香取市におけるインバウンド施策の現状と課題

(1) 外国人入込客数の推移

香取市におけるインバウンド施策の現状と課題の分析に先立ち、外国人入込総数²⁰⁾を概観していくことにする。

①年度別状況

外国人入込総数（図12）について、年度別にみると直近の10年間においては、平成30（2018）年度の11,733人がピークとなっている。コロナ禍の影響を受けた外国人観光客減少

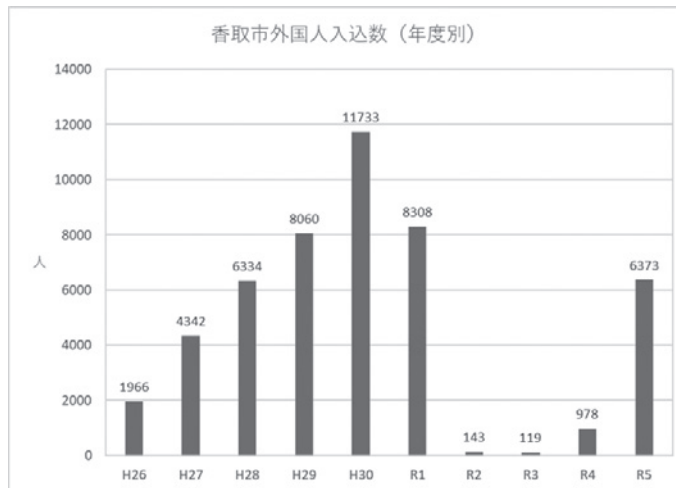
傾向も令和4（2022）年12月から徐々に増加傾向にある。令和5（2023）年度の外国人入込総数は、平成28（2016）年度の水準と同じ程度まで回復しているものの、ピーク時の平成30（2018）年度と比較すると54.3%となっている。

②月別状況

年度別・月別に外国人入込総数（図13）をみると、直近の10年間においては、外国人観

20) 香取市役所は、外国人入込総数＝「佐原町並み交流館の外国人入込数」＋「観光協会の外国人入込数」として算出している。なお、観光協会の外国人入込数は、H26年度からR1年度までは佐原駅前案内所＋交流センターの数値であるが、R2年度から交流センターが閉鎖されたため、佐原駅前案内所分のみ数値となっている。

図 1 2 香取市の外国人入込総数（年度別）



出典）著者（林）が香取市提供データをグラフ化した。

光客数の集中期、閑散期を確認できる²¹⁾。

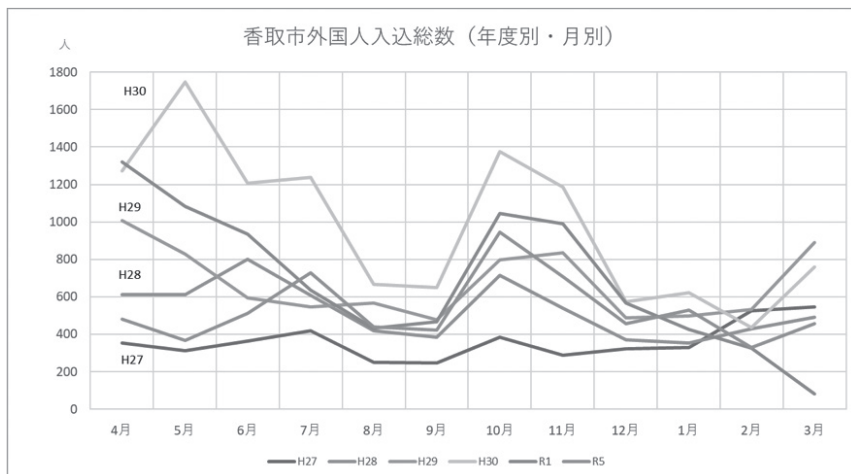
年度によって入込総数が異なるが、5月、6月、10月、11月が集中期、8月、9月、12月～2月が閑散期となっている。

人訪問数をランキング形式で整理したものが表3である。地域分類で見えていくと、東南アジア圏（タイ・シンガポール・マレーシア・ベトナム・フィリピン）、東アジア圏（中国・韓国・台湾・香港）をはじめ広く香取市を訪れていることが確認できる。

③国・地域別の内訳

香取市提供資料により、駅前観光案内所外国

図 1 3 香取市の外国人入込総数（年度別・月別）



出典）著者（林）が香取市提供データをグラフ化した。

21) コロナ禍の影響を受けている令和2年度、令和3年度、令和4年度その他、佐原駅前案内所及び交流センターの来訪者数データが4月から6月の間欠落している平成26年度のデータは分析対象外としている。

表3 駅前観光案内所外国人訪問者数のランキング

H30年度			R5年度		
順位	国・地域名	来訪者数	順位	国・地域名	来訪者数
1位	タイ	1,218	1位	台湾	689
2位	台湾	919	2位	香港	274
3位	香港	284	3位	タイ	222
4位	アメリカ	169	4位	アメリカ	139
5位	中国	111	5位	中国	131
6位	オーストラリア	89	6位	フランス	107
7位	シンガポール	77	7位	シンガポール	101
8位	マレーシア	69	8位	韓国	94
9位	フランス	64	9位	オーストラリア	72
10位	イギリス	40	10位	カナダ	58
11位	韓国	36	11位	インドネシア	53
12位	ベトナム	35	12位	マレーシア	43
13位	カナダ	33	13位	スイス	29
13位	フィリピン	33	14位	ドイツ	28
15位	メキシコ	26	15位	イギリス	27
16位	ドイツ	25	16位	ベトナム	26
17位	スペイン	22	17位	フィリピン	20
18位	イタリア	18	18位	オランダ	14
19位	ロシア	16	19位	イタリア	13
20位	インドネシア	15	19位	インド	13
20位	ポーランド	15	21位	ブラジル	11
22位	インド	11	21位	ミャンマー	11
23位	スイス	10	23位	ニュージーランド	10

出典）著者（林）が香取市提供データを抜粋、再整理した。

表4 駅前観光案内所外国人訪問者数の推移（タイ国）

H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
288（人）	622	989	907	1218	966	0

出典）著者（林）が香取市提供データを抜粋、再整理した。

平成 30(2018)年度のタイ人観光客は 1,218 人で第 1 位となっているが、表 4 のとおり、コロナ禍前においては、タイ人観光客が増加傾向にあった。

その背景には、平成 25 (2013) 年 7 月から始まった、日本を訪れるタイ人観光客のためのビザ免除制度の影響がある。これを受け、タイでは日本流行が大ブームとなり、それに合わせるかのように、日本で撮影された映画やドラマが続々とタイで公開されていることがある。

特に、平成 25 (2013) 年 12 日にタイ国内で公開された映画「ファットチャント」は、ボーイ・パコーンさんとイプソー・ラミターさんの二人によるコメディ作品である。

この作品は、日本でオールロケがされ、その作品の中で二人が訪れた千葉県香取市の水郷の町・佐原がタイ人の注目を集め、タイ人観光客が殺到するようになっている²²⁾。

(2) 香取市のインバウンド施策の概要

香取市は、どのようなインバウンド関連施策(受け入れのための環境整備、誘客数増に向けた誘致策など)を実施しているのだろうか。また、同市はインバウンドにどのようなことを期待しているのだろうか。さらには、インバウンドを進める上でどのような点を課題と考えているのだろうか。これらの点について、質問紙による調査を行ったところ、次のような回答が得られた。

(香取市のインバウンド施策)

- ①県や成田空港周辺地域の協議会の活用(商談会や海外セールス、成田空港周辺地域での広報等)
 - ②県の補助金を利用した観光案内看板の設置
 - ③多言語パンフレットの作成(タイ語、英語、繁体字)
 - ④外国出身の国際交流員の雇用
 - ⑤外国出身の地域おこし協力隊の雇用による情報発信
- タイ出身の国際交流員とニュージーランド出身の国際交流員を任用し、タイ語及び英語での観光情報発信。
- 中国出身の地域おこし協力隊とジョージア出身の地域おこし協力隊を採用し、中国語及び英語で観光情報を発信している。

(観光協会のインバウンド施策)

外国語パンフレットのお渡し。

(インバウンドに期待していること)

- ・インバウンドの増加に伴う、市何における消費額の増加
- ・各企業、団体がインバウンド対策を講じることによる高付加価値商品(コンテンツ)磨き上げのきっかけづくり

(インバウンド関連施策をすすめるうえでの課題)

22) タイランドハイパーリンクス・ウェブサイト「水郷の町・千葉県香取市佐原にタイ人観光客急増の理由はタイ映画!【TVウォッチング】」(2014年6月21日配信記事)

<https://www.thaich.net/news/20140621b.htm>。千葉日報「“佐原ブーム” タイ人観光客増 映画ロケ地の影響で おもてなしブック配布など 香取市」(2016年7月25日配信記事) https://www.chibanippo.co.jp/news/local/339583?qt-photonebstab=0&quicktabs_photonebstab=1&qt-accessranking=0

インバウンドに限らないが、以下の点が挙げられる。

- ・成田空港からのアクセスや市内観光施設間の移動手段（二次交通）の不足
- ・多言語表記、案内等不足
- ・市内にヴィーガン食やハラル食に対応している飲食店の不足

（３）周辺自治体・成田空港との連携による観光振興

①広域的な観光振興の取り組み

香取市では、周遊性の向上により観光客の市内滞在時間を延ばし、地域への経済効果をより一層もたらす観光施策として、近隣自治体との連携による広域的な観光振興の取組を行っている。

主な取り組みは、鹿嶋市、潮来市、神栖市と構成する東国水郷観光推進協議会において、東国三社や水郷地域の観光資源を活用したプロモーション事業等を展開している。

また、佐倉市、成田市、銚子市及び千葉県と連携した日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会においては、民間旅行事業者の企画による臨時特急日本遺産北総四都市号の運行（令和６年４月下旬実施）や、年間を通じての各種イベントへの広報ブースの出展のほか、北総地域の歴史的資源を活用した新たなツアーの造成やSNSなど情報発信により北総地域への誘客に向けたプロモーション事業を実施している。

この他には、広域連携によるインバウンド対

策として、成田国際空港株式会社及び近隣市町等と組織する成田空港トランジット&ステイブプログラム連絡会や、成田空港周辺地域国際観光推進協議会に参画し、海外セールス事業やSNS等による情報発信事業を展開している。

②最近の特徴的な取り組み

最近の特徴的な取り組みとしては、令和６（２０２４）年１０月に、東日本旅客鉄道株式会社千葉支社と（株）ＪＲ東日本びゅうツーリズム&セールス、日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会（佐倉市、成田市、香取市、銚子市）は、オリジナルラッピングバスを使用した現地発着型モニターバスツアーを実施している²³⁾。

これは、「日本遺産北総四都市江戸紀行」をテーマに「城下町の佐倉」、「門前町の成田」、「商家町の佐原」、「港町の銚子」のそれぞれの魅力を体感できるコースを設定し、オリジナルラッピングバスに乗って、北総の江戸情緒を堪能するものである。

「日本遺産北総四都市江戸紀行」とは、以下のコンセプトである。

２０１６年に佐倉・成田・佐原・銚子の四都市が、「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」-佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的な町並み群」として日本遺産に認定されました。

江戸時代、大都市江戸に隣接していた『北総四都市』は、地域の豊かな土地と魚場から得ら

23) 以下の記述は「千葉・北総で江戸体験？ バスでタイムスリップ！『日本遺産北総四都市江戸紀行』モニターバスツアーを実施します」(令和６年１０月９日付け・JR東日本グループニュース(プレスリリース))によった。
https://www.jreast.co.jp/press/2024/chiba/20241009_c01.pdf

れた資源や商品を、地域を流れる利根川の水運によって江戸に供給していました。「銚子」でつくられた醤油や水揚げされた海産物は江戸の食文化を支え、「佐原」はその水運により商家が栄えました。

水運とともに江戸を結んだ街道により、『北総四都市』はさらに発展しました。「佐倉」にあった佐倉城は江戸防御の要であり、この佐倉城と江戸とを結ぶ佐倉街道が整備されたことで、人々の往来が盛んになりました。さらに、江戸時代に、「成田」参詣が流行したことで、佐倉

城から先の成田山新勝寺まで足を運ぶ参詣客が増加しました。

江戸との交流の中で、江戸の影響を受けながらも、「城下町の佐倉」、「門前町の成田」、「商家町の佐原」「港町の銚子」という特色ある独自の発展を遂げ、今でも、江戸時代からの町並みと、祭礼などの伝統文化を見ることができる。

なお、「商家の町佐原」については、図14のようなコース設定がされている。

図14 商家町佐原 発酵文化体験ツアーの体験内容

【(日帰りコース)商家町佐原 発酵文化体験ツアー】



「関東で初めて認められた歴史的な町並み」
食べながら知る
伊能忠敬が名主をつとめた『発酵』のまち、香取市佐原

「佐原=商家町」の『発酵文化体験』をご提供します！
酒蔵を改修した「LE UN(ルアン)」で
発酵フレンチを体験



発酵フレンチ

蔵元や醤油、味噌、味噌、漬物などが盛んな『発酵のまち』ならではの食材を使用したツアーオリジナルの「発酵フレンチ」をお召し上がりください！

<主なスポット>



香取神宮
関東を中心に約400社ある香取神社の総本社



LE UN(ルアン)
地産地消をテーマに地元の食材や名産を取り入れたレストラン



綱橋寺
日本三大厄除弘法大師に数えられている寺院

出典) 令和6年10月9日付け・JR東日本グループニュース(プレスリリース)を部分抜粋。

また、令和5年度9月補正予算事業として「江戸優り佐原の水辺空間賑わい創出事業～佐原河岸 年中楽しい・嬉しい・美味しいゴージャスマイナイトグルーピング・それぞれの河岸日和～」が実施されている。これは、観光庁の観光再始動プロジェクトを活用したもので、事業費は8,000万円となっており。10月から2月にかけて週末の夜を特別な空間として佐原河岸を光で演出するイベントなどを実施している。

具体的な事業概要は、小野川の川面や河岸を照明等で照らして、特別なイベント会場として活用し、風情のあるナイトライフを楽しめるよう、船上ディナーを楽しむナイトクルーピング、佐原河岸での夜市の開催、伝統食の発酵料理等を外国人向けコンテンツとして磨き上げるなど、東京や成田国際空港に立ち寄る訪日客を誘致するものである。

図15 江戸優り佐原の水辺空間賑わい創出事業（チラシ）

佐原河岸・水辺の灯り賑わい創出事業
 小野川沿いの歴史的町並みの夜を楽しみましょう♪
Sawara riverbank/waterside lighting project
to create a lively atmosphere.
 Let's enjoy the night view of the historical townscape along the Ono River!

観光再始動事業 江戸優り佐原の水辺空間創出事業

小野川両岸はかつて佐原河岸とよばれ多くの人々の交流がありました。小野川沿いに灯りを灯し、軒先夜店・星空マーケット・ハルめぐり・マルシェを楽しみましょう♪
 Both banks of the Ono River were once called the Sawara Riverside, where many people interacted. Lights are lit along the Ono River, so let's enjoy night stalls, starry sky markets, and bar hopping!

開催期間：2023年10月～2024年1月末まで
 場所：小野川沿いの町並み（香取市佐原）
 詳細はwebにて dx.nid.co.jp
 Event period: October 2023 to the end of January 2024
 Place: Townscape along the Ono River (Sawara, Katori City)
 Details on the website dx.nid.co.jp

主催・共催 香取市 佐原商工会議所 (株) NIPPONIA SAWARA (一社) 水郷佐原観光協会
 協力 まちおこし会社(株) ふれきめら 佐原・葛たすきけ事業協同組合 佐原おかみさん会 佐原みらい連河(株)
 結いの会 香取市国際交流協会 プラットフォーム佐原 特定非営利活動法人まちおこし佐原の大勢舞舞協会
 (株) エヌアイディ 特定非営利活動法人佐原アカデミア かけわ(株) (株) 食・文化研究所 千葉交通(株)
 特定非営利活動法人小野川と佐原の町並みを考える会 かつり町並みアート倶楽部 バリウマネジメント(株)

出典）香取市プレスリリース（2023年12月14日付け）から抜粋

<https://www.city.katori.lg.jp/mayor/press-release/mayor-press2023.files/20231214.pdf>

本事業のメインターゲットは外国人であり、インバウンドの回復に資することが事業の採択要件の一つとなっている。事業の成果については、香取市の観光の中心地となっている香取街道と小野川が交差する忠敬橋から本事業で実施するイベントにより佐原河岸に人の流れをつくり出すことで、周辺店舗への立ち寄りが増え、観光消費単価を高めることができ、訪日客向けの高付加価値商品販売によって地域経済への底上げに資することができた。また、新規事業や地域の特性や魅力を最大限に生かしたプロモーションの実施により、地域ブランド化を強化するとともに、従来の観光客以外の新たな観光需要が創出され、外国人を含めた観光客が訪れ、知名度の一層の向上に寄与したと評価している²⁴⁾。

③広域観光に対する対応・取り組み方針

香取市は広域観光について、具体的にどのような対応や取り組み方針をもっているのだろうか。ここでは、最近の市議会における一般質問を素材に分析していく。

例えば、令和6年6月議会においては²⁵⁾、前田誠之市議（政友クラブの）から、次のような質問がなされている。

「当市においても、観光業は重要な産業であることから、他自治体に勝る取組が強く求められております。観光政策の中でも観光庁が推進

しているのが、コンテンツ連携による広域的な周遊観光の促進でございます。つまり、観光客の滞在時間の延長にはありません。1つの観光地だけでなく、近隣の観光エリアが連携し、1つのブランドを確立することが早急に求められております。そこで伺います。香取市の広域観光政策の取組の現状はどのような状況でしょうか」。

これに対して、伊藤友則市長は、取り組みの概況を説明の後、「引き続き広域連携のメリットである観光周遊ルートの形成による地域の魅力向上や情報発信力の強化等を推進し、さらなる観光振興に努めてまいりたいと考えております」と答弁している。

続いて、前田市議からの「市長のご答弁でもございましたけれども、今かなり一般的に注目されているのが、東国三社巡りでございます。その中心となっている香取市、鹿嶋市、そして神栖市、そして隣の潮来市、その中で鹿嶋市、潮来市、神栖市との連携の現状は、今どのようなになっておりますでしょうか」との質問している。

これに対して、生活経済部長（平野靖氏）は、次のとおり答弁している。

「先ほどの市長答弁にもありましたとおり、香取市では鹿嶋市、潮来市及び神栖市と連携し、

24) 香取市議会会議録検索システム「香取市令和6年3月定例会03月06日-02号」における生活経済部長（平野靖君）答弁による。

25) 以下の記述は、香取市議会会議録検索システム「香取市令和6年6月定例会06月06日-03号」によった。
https://ssp.kaigiroku.net/tenant/katori/SpMinuteView.html?council_id=198&schedule_id=4&minute_id=14&is_search=true

東国水郷観光推進協議会を組織しており、東国三社や水郷地域の観光資源を活用したプロモーション事業等を実施しております。

令和5年度は、香取市が幹事市となり、東国水郷観光推進協議会のホームページの拡充をはじめ、貸切りタクシープラン及び観光船プランの2つの観光コンテンツの実施に向けた検証等を行っております。

そのほか構成する4市の観光ガイド及び観光事業関係者の連携を図るため、ガイド視察研修の実施や令和4年度に作成した東国三社と4市を紹介した小冊子「ことりっぷ」を電子書籍化し、ウェブ上に公開するなどの観光情報の発信を連携して実施しております。

なお、令和6年度につきましては、鹿嶋市が幹事市となり、SNS等を活用したイベントや動画コンテストの開催、インバウンド向け旅行事業者及びインフルエンサーの招請事業実施などを予定している。」

続いて、「今、インバウンドという答弁もございましたけれども、インバウンド、例えば近隣、一番重要な成田空港がございます。その成田空港とは今どのような連携をしておりますでしょうか」との質問に対して、生活経済部長（平野靖氏）は、次のとおり答弁している。

「新聞等の報道によりますと、成田国際空港株式会社がまとめた昨年度の国際線外国人旅客数は、前年度比2.7倍の1,789万人で、過去最多となったとのことでございます。

昨年度以降、急速にインバウンド需要が回復傾向にある中で、国際空港周辺地域が単なる通過点とならないよう周辺地域全体が連携し、地

域の観光資源を有効活用した事業を展開していくことが重要であると考えております。

千葉県及び成田空港周辺市町が参画している成田空港周辺地域国際観光推進協議会では、令和5年度に外国人メディア等を招請し、各自治体の観光資源を活用したオンライン記事の作成や、協議会で制作した動画の配信等を実施しているほか、海外で開催したインバウンド向け商談会への参加など、セールス事業も実施しております。

また、成田国際空港株式会社と周辺市町等が連携した成田空港トランジット&ステイプログラム連絡会では、近年は新型コロナウイルス感染症等の影響によりツアーの実施がなされておりましたが、各市町のイベントや観光情報の発信を連携して実施しております。

なお、成田国際空港株式会社へは、平成19年度より香取市職員を派遣しており、観光を含めた地域振興施策に関連し、空港との連携を深める取組を行っております。」

3. 「川の駅」事業の分析

（1）地域のブランド化

全国の地方自治体では、他の地域と差別化し、一過性ではなく、移住者や来訪者に選ばれ続け、愛され続ける地域になるための施策に、日夜、取り組んでいるところである。

そのためには、地域のブランド化が必要であり、「歴史」や「自然環境」など、その地域の独自性を反映させた地域の価値を高める活動が盛んに行われている。

地域ブランドには、「地域の産品やサービスなどの商品」と「地域が生み出す景観」がある。

地域のブランド活動は、その地域の独自の価値観やこの地域にしか無い魅力を創造することであり、常にその価値を高め続けることが重要である。

こうした中で、千葉県内でも屈指の観光地である香取市の「川の駅」事業を見ていくことにしたい。

(2)「水の郷さわら」事業

香取市は、利根川の水運を利用し、江戸との舟運により栄えた商都・水の都である。江戸時代に、『お江戸見たけりゃ佐原へござれ 佐原本町江戸優り』と詠われるほど古くから水運で栄えた街で、現在でも江戸情緒あふれる景観を生かした観光地である。

夏と秋に開催される「佐原の大祭」は、ユネスコ無形文化遺産に指定され、まさに「江戸優り」の象徴である。

「水の郷さわら」は、全国初となる「道の駅」と「川の駅」が一体となった複合施設である。この全国的にも珍しい「川の駅」に着目し、考察してみたいと思う。

①事業目的と事業名

この事業は、国における高規格堤防整備事業等の利根川の治水事業の取り組みや香取市における佐原地域中心市街地活性化の取り組み等を踏まえ、各種関連事業の一体的整備を図るとともに、市民による地域づくりの活動と連携した運営を行い、地域住民と広域から訪れる人、そして利根川と「江戸優り佐原文化」の多様な交流を促進し、利根川下流部の防災拠点を形成するとともに、佐原地域の都市再生に寄与する広域交流拠点を形成するために実施されている事

業で、「佐原広域交流拠点改修運営等事業」と称し、次の四つの拠点機能（防災拠点機能、水辺利用拠点機能、文化交流拠点機能、交通拠点機能）を一体的に整備したもので、「川の駅」事業もこの中に含まれている。

②事業手法と事業者

この施設は、ＢＴＯ方式（設計・建設・維持管理・運営を一括発注することで、民間事業者の持つ技術力・経営能力・資金力を活用し、安価で優れた品質の公共サービスを提供する方式）により整備、維持管理、運営が行われ、平成２２年（２０１０年）３月に施設の供用が開始されているが、令和７年（２０２５年）３月で、１５年間の維持管理・運営業務契約期間が満了するので、引き続き同業務をＤＢＯ方式（公共団体等が資金を調達し、民間事業者に施設の設計・建設・維持管理・運営を一体的に委託することで、民間事業者の技術力・経営能力を活用する方式）で行うべく、令和６年（２０２４年）４月に募集要項等を公表し、説明会・現地見学会（４月）、募集要項等に関する質問の受付（４月）、回答（５月）、参加表明書の受付（５月）、提案書類の受付（８月）、優先交渉権者の選定（１０月）、基本協定の締結（１０月）、仮契約の締結（１１月）を経て、１２月定例市議会で事業者を決定し、本契約を締結した。

事業者は、平成２２年（２０１０年）４月～令和７年（２０２５年）３月までの１５年間は、「ＰＦＩ佐原リバー株式会社（東洋設計（株）を中心とする５社で出資）」であったが、令和７年（２０２５年）４月からは、「株式会社 水の郷さわら」となる。

③国・県・市の役割分担

a. 国

河川防災ステーションを中心とした関連施設と併せて高規格堤防（スーパー堤防）と防災拠点を整備し、安全なまちづくりを推進する。

b. 千葉県

国道356号（県管理）を4車線に整備する。

c. 香取市

交流人口の拡大や地域の活性化を図るため、観光による交流人口の受け皿を整備する。

- i 都市と農村の交流の場として
- ii 車での来訪者の玄関口として
- iii 中心市街地への舟運でのアクセスの交通結節点として
- iv 水辺利用者の拠点として
- v 災害時は水防拠点として

④事業用地と敷地面積

事業用地 千葉県香取市佐原イ3981番地2
外敷地面積 169,620㎡（国及び市の敷地）

⑤主な施設と面積

河川利用情報発信施設	1,490㎡
水辺交流センター	830㎡
車両倉庫・建設機械倉庫	360㎡
エントランス広場	440㎡
修理ヤード	345㎡
佐原河岸	2.2ha
緊急船着場	0.3ha
親水・湿地ゾーン	7.0ha
地域交流施設（道の駅）	1,412㎡

⑥事業費と交付金

当該施設は、BTO方式により整備・維持管理・運営が行われており、事業費は、次の通りである。なお、この数字は香取市分の15年間の事業費である。

施設整備費計793,573,490円

（このうちまちづくり交付金が建設時に66,007,978円が交付されている）

維持管理・運営費計533,211,805円

合計 1,326,785,295円

⑦施設利用者の状況（10年間）

複合施設であり、施設全体の利用者数は把握できないことから、メインの施設である「防災教育展示室」の10年間の利用者数の推移を見てみると、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、それ以前の数字に回復しつつある状況である。

2015年度	17,820人
2016年度	16,957人
2017年度	13,366人
2018年度	13,123人
2019年度	12,421人
2020年度	3,266人
2021年度	4,310人
2022年度	9,431人
2023年度	12,466人
	（10月まで7,284人）
2024年度	8,913人
	（10月までの集計）

⑧「道の駅」と「川の駅」が併設されていることによる相乗効果

両施設が併設されていることで、「道の駅」を利用する車を中心とする観光客等と川に親し

み、川をレジャー等で利用する人たちが、効率良く双方の施設を利用し、地元の人も含めて交流できる点は、大きな相乗効果である。

また、同一のＳＰＣ（特別目的会社）によって維持管理・運営されていることで、双方で役割を分担あるいは連携して事業を行うことができるため、一体的で効率・効果的な運営が行われ、相乗効果が発揮されやすい。

⑨課題と提言

「川の駅」に関連する親水・湿地などの体験ゾーンが十分に生かされていない面も感じられることから、二つの施設が複合している利点を、さらに効率・効果的に生かして欲しい。

そのため、事業者（ＳＰＣ）・佐原市・国（利根川下流河川事務所）の三者が、連携・調整を図るための組織を立ち上げて、年間を通して十分な協力・連携の下、効率・効果的な維持管理及び事業運営を図られたい。

また、この組織に市民活動団体の参加も募り、体験ゾーンの活用や定期的に行われ様々な事業（イベント等）にも市民の視点からの意見を反映させて、より市民、市外からの来訪者に寄り添った事業が展開されることを望みたい。

一方、もう一つの大きな目的である防災拠点機能としては、いざという時のために、日頃から事業者（ＳＰＣ）も含めた連携マニュアルの整備と充実した訓練を実施し、一層の防災・減災対策を望みたい。

なお、国の文化審議会は、令和７年１月２４日付けで「利根川中下流域の川船及び関連用具」を登録有形民俗文化財に登録するよう文部科学省に答申している。旧佐原は、この利根の水運の中核をなす場所であり、「川の駅」にこの関

係の展示と解説がなされると、施設の一層の充実が図られるとともに、さらなる地域の活性化に寄与するものと思われる。

4. 香取市のグローバル・デザインの方向性

（１）本稿における分析結果のまとめ

これまでの分析に基づき、明らかとなった香取市の地域経済循環の特徴と課題は、次のとおりである。

①生産面：農林水産業が中心で、第２次、３次産業の労働生産性が低い。

- ・コメ、サツマイモ等の生産量が多く、農業（第１次産業）は労働生産性（従業者１人当たり付加価値額）が高い。また、地域外からの所得を稼いでいる。

- ・地域の稼ぐ力を向上させること、つまり、生産性の向上による付加価値額を増加させるための産業振興策が必要となる。

②分配・所得面：域外への通勤により雇用者所得が流入している。

- ・香取市の域内生産活動によって稼いだ所得は、雇用者所得・その他所得ともに域内へ流入し、地域で稼いだ所得が地域住民に還元されている。

- ・しかし、香取市の一人当たり雇用者所得は、他市区町村と比較して低位であり、地域産業の生産性（稼ぐ力）向上と収益の拡大による住民所得の向上が課題である。

- ・地域外からの雇用者所得の内製化、つまり、香取市内に新たな産業や働く場を創出し、地域経済循環率を向上させることが課題である。

③支出面：民間消費は流入、民間投資は流出

している。

- ・ 民間消費額の支出流出率は、他地域に比べて優位な状況であり、他地域からの流入もみられる。
- ・ 消費全体で見ると域外から所得が流入している。一方投資面では、第2次産業の労働生産性が低いため域外から投資を呼び込めておらず、流出している。結果的に所得が生産に還元されにくい循環構造となっている。
- ・ 5,000㎡を超える大規模商業施設が市内には4カ所ある²⁶⁾。しかし、成田市、神栖市、稲敷市などの隣接市にも類似の大規模商業施設はあり、日常的な買物に伴う消費が市外に流出している可能性もある。
- ・ 観光資源や地域資源が豊富なため、観光地として観光客を呼び込んでおり、非日常的な消費が流入している。
- ・ 第2次、第3次産業の生産性が低いため、市外からの民間投資は無く、民間投資額の一部やその他支出は市外に流出していることから、市外からの設備投資など、民間投資の呼び込みが課題となる。
- ・ 「地域内に循環」を増やすため、分配（所得）で得た所得をできるだけ多く地域内で循環させるための産業間連携の仕組みづくりが必要である。
- ・ 「地域外からの流入」をさらに増やすため、観光振興等に取り組む必要がある、
- ・ 漏れバケツの穴（地域外に流出）をできる

だけ小さくするための取り組みを具体化していくことが課題となる。

- ・ 移輸出入収支をまとめると、市外から収入を得ている産業は、農業、電気業、その他の製造業、その他のサービス業、住宅賃貸業となっており、これらの産業をさらに強化していくことが課題となる。
- ・ 市外への支出が多い産業についてみると、卸売業、建設業、食料品、小売業、宿泊・飲食サービス業である。漏れバケツモデルの観点から見ると、漏れバケツの穴（地域外に流出）をできるだけ小さくするための取り組みを具体化していくことが課題となる。

（2）グローバル・デザインの方向性

香取市の地域経済循環の課題を解決するためのグローバル・デザインの方向性は、次のとおりである。

【グローバル・デザインの方向性】

日本遺産、重要伝統的建造物群保存地区に選定されているや佐原、小野川周辺地域、香取市の水郷景観、水の郷さわら（川の駅・道の駅）等、既存の地域資源を活用したエコツーリズムの開発・普及等により、新たな観光関連産業を創出していく。

この際、農業における強みや、観光等による香取市への民間消費の流入を活用し、第1次産業、第2次産業の地場製品の売上を拡大する。

26) 千葉県庁が公表している「市町村別大規模小売店舗名簿 12236 香取市」(令和5年12月末日) 現在によれば、ショッピングモールサワラシティ (8,631㎡)、ケーヨーデイツー佐原店 (8,545㎡)、小見川ショッピングセンターアピオ (7,634㎡)、カインズホームスーパーセンター香取小見川店 (9,300㎡) がその内訳である。

さらには、域外からの民間投資を呼び込むことにより、労働生産性（付加価値額）の向上を図る。また、観光商品の開発に際しては、飲食店等の地元サービス業等との連携を強化するなどにより、第3次産業の売上拡大を目指す。

こうした、地域内経済循環を構築するための地域産業間の連携の具体像として、「香取市の水辺空間と発酵文化（食材）を中核とした滞在型観光の提供」を提案したい。

日本にはその土地の土壌や気候に合わせた様々な食文化がある。香取市は、古くから醤油、みりん、日本酒等の醸造業が盛んな地域であり、調味料製造業の大規模事業所（ちば醤油株式会社）が立地しているほか、良質な米でできる日本酒や酒粕、大豆と塩と麴で出来る味噌や醤油といった醸造業なども多数存在している。

①馬場酒造本店（香取市佐原）

馬場本店酒造は約340年前、天和年間（1681～1683年）に麴屋から始まった酒蔵である。蔵出しの日本酒のほか、昔ながらの製法を守り続けている「最上白味噌」も有名である。一般的な醸造用糖類は使わず、もち米と手作り麴のみで作った逸品と評されている。

②佐原商家町ホテル NIPPONIA：発酵フレンチと蔵元直送の日本酒が楽しめる酒蔵レストラン

佐原のまちに点在する町屋や古民家をリノベーションした分散型ホテル「佐原商家町ホテル NIPPONIA」が2018年3月にオープンしている。2021年には、先述の「馬場本店酒蔵」所有の南蔵を改装し、フロントとレストランが入るKAGURA棟として生まれ変わっている。

同ホテルが運営する古民家カフェ「VMG CAFE」では、発酵文化のある佐原のフレンチシェフが考えた「発酵×かき氷」は、ふわふわの口当たりで、甘酒と発酵ベリーの自然な甘さを活かした優しい味わいをもっている。

③地域食材を活かした発酵フレンチ

「レストランルアン」のお料理は、千葉の銘柄牛や魚介、野菜など選りすぐりの旬食材に加え、味噌や醤油・麴・酒粕など、こだわりの発酵や熟成食材をフレンチに取り入れている。ここでしか味わえない「発酵フレンチ」と蔵元直送の日本酒とのペアリングも楽しむことができる。

④全国初「発酵」をテーマとした道の駅

隣接する千葉県神崎町にある「発酵の里こうざき」は、地元食材を中心に発酵食品や関連食材が約400種類以上ある。こうした隣接地域との連携についても視野に入れていきたい。

以上の様に、香取市には、発酵文化（食材）に関連する食文化をはじめとする地域資源が多数集積している。発酵食品と発酵文化の素晴らしさを全国に向けて発信するイベント（発酵サミット）などの取り組みがすでに始まっているが、こうした、発酵文化（食材）を中核とした滞在型観光の具体化が、香取市の地域経済循環の特徴と課題を解決する一助となろう。

【謝辞】

本論文の作成に必要な資料収集について、我孫子市秘書広報課、香取市秘書広報課に多大なご協力をいただいたことに感謝を申しあげたい。

また、香取市秘書広報課を通じて「香取市に

おけるインバウンド施策の現状と課題について」と『『川の駅』に関する質問に対する回答』として、関連資料、データ等をまとめていただいた関係課の皆さんにも心よりの感謝の意を表し、著者らの拙い報告書をひとまずの御礼としたい。

【参考文献・資料】

枝廣淳子（2018）『地元経済を創りなおすー分析・診断・対策』岩波新書

岡田知弘（2022）『地域づくりの経済学入門 地域内再投資力論（現代自治選書）』

日本政策投資銀行・価値総合研究所（2019）『地域経済循環分析の手法と実践 生産・分配・支出の三面から導く、新しい地域経済政策』ダイ

ヤモンド社

香取市（2023）「第2次香取市総合計画後期基本計画・第3期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

ブランド総合研究所「第18回地域ブランド調査 2023 個別報告書」（香取市）

ブランド総合研究所「第19回地域ブランド調査 2024 個別報告書」（香取市）

立案・構成・調査

林 健一、佐藤 寛、青木 章

本文の執筆分担

林 健一：概要、1、2、4 青木 章：3

Glocal Design Proposal: Katori City

Kenichi Hayashi

Professor Department of Modern Liberal Arts, Chuo Gakuin University

Hiroshi Sato

Visiting researcher, Institute of Social System, Chuo Gakuin University

Akira Aoki

Visiting researcher, Institute of Social System, Chuo Gakuin University

Abstract

This paper aims at making proposal for the future design of Katori City, Chiba Prefecture, making full of its global connections and its resources (historical, cultural, natural, social and economic).

We aim to develop and promote ecotourism that leverages unique regional resources, such as the historical scenery of the Sawara and Ono River area, the waterfront landscape of Katori City, and Mizunosato Sawara, to create new tourism-related industries.

Additionally, we seek to develop and market new local products and tourism goods in the primary and secondary industries, attracting private consumption and investment from outside the region.

When developing tourism products, we will strengthen collaboration with local service industries, such as restaurants, to establish an economic circulation within the region and expand sales in the tertiary industry.

As a concrete strategy for industrial collaboration, we propose a stay-based tourism model centered around Katori City's waterfront spaces and its fermentation culture (local ingredients).